

黒住教 お日の出を拜み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市尾上神道山 TEL：086-284-2121 FAX：086-284-4756 <http://www.kurozumikyo.com/>

WCRP第八回世界大会 副教主様が主要なお役をおつとめ

八月二十六日～二十九日

各国の宗教指導者が平和への役割を探る世界宗教者平和会議(WCRP)第八回世界大会が、八月二十六日から二十九日まで京都市の国立京都国際会館で開催され、開会式には小泉純一郎首相(当時)も出席して「宗教協力」への期待を述べました。

WCRP日本委員会理事をおつとめの教主様は、日本の宗教者を



代表する五名の「正式出席者」の一人として出席、また大会実行委員として企画段階から協力してこられた副教主様は、「会議部長」として要職をつとめられました。WCRPは平和を希求する宗教者による国際的なネットワーク組織で、数年ごとに世界大会を開催してきました。9・11テロの影響で七年ぶりとなった今大会は、昭和四十五年(一九七〇)の初回大会開催の地・京都で行われ、六大陸から百を超える国・地域の正式代表者(五百人)を含む、約二千人の宗教指導者が参加しました。

大会は「紛争解決」、「平和構築」、「持続的開発」の三つの主要テーマ別に行われた「全体会議」と各専門会議で討議が重ねられました。中でも、特に重視されたのが「研究部会」で、「和解と癒し」、「平

和教育」、「子どもとHIV/エイズ」、「貧困撲滅」、「環境」等の各課題に対する宗教者としての取り組みが具体的に話し合われました。同時に、「宗教的中立国」との信頼を得る日本ならではの会議として、紛争当該地域の宗教者間による緊迫した非公式の和平調停協議も行われました。

副教主様は、ただ一人の日本人ラポーター(分科会の要旨を公式報告としてまとめ発表する役)として「平和構築研究部会」を担当。「武器拡散、軍縮、安全保障作業部会」での議長発言と討議の内容を要約して壇上から発表され、全体会議に提出する正式報告の作成に携わられました。これらの発表・報告・質疑応答はすべて英語で行われ、まさに獅子奮迅のご活躍でした。

教主様も合流された閉会式で「京都宣言」が採択されて大会は終了しましたが、その実践こそが今後の課題です。

なお、本大会に先立つ事前会議として「青年世界大会」(於 広島と京都、二十一日～二十五日)が開催され、二十四日には、広島から京都に向かう各国の青年宗教者リーダーの一行約百五十名が、黒住教本部神道山の大教殿に参拝しました。御神前奉告式の齋主をつとめら



れた教主様は、先の大戦で広島と長崎に原子爆弾が投下され、さらに主要都市が焼きつくされて一般の多くの命が奪われたにもかかわらず、日本人は決して報復的態度をとることなく、寛容の心をもって世界平和の実現につとめてきた歩みを話され、「石を投げて来る者があれば、真綿で受け止める先導者になつていただきたい」と呼びかけられました。

続いて、青年宗教者の代表者が「広島宣言文」を教主様に手渡し、教主様からは「WCRP VIII」と御自ら刻書された備前焼の盃が全員に贈られました。吉備舞奉納の後、副教主様から本教の紹介があり、続いて大教殿前庭にて記念撮影。参拝を終えた青年宗教者たちは、教団への賞賛とお礼の言葉を述べて、神道山を後にしました。

伊勢神宮

「お木曳行事」への参拝奉仕

去る五月二十八日、教主様をはじめ、全国各地の教会所から、上は九十六歳、下は三歳にいたる老若男女一、五〇一名のお道づれが、「お木曳行事」に参拝奉仕し、まさに深い感動と感謝の心一つになりました。

から伐り出されて伊勢に運ばれた檜の御用材を、神領民が木遣り音頭も勇ましく両正宮(内宮と外宮)に奉曳する、伊勢神宮「式年遷宮」の重要な行事の一つです。

ところで、伊勢神宮「式年遷宮」は、両正宮をはじめ、十四の別宮と百九の摂社・末社・所轄社のすべてを建て替え、御装束や御神宝も新調して神威も新たに御祭神にお遷りいただく、日本最大にして最高のお祭りです。戦国時代に一時中断したものの、千三百年の長きにわたって二十年ごと

に執り行われてきました。伊勢神宮と本教とのご縁は、教祖宗忠様のご生涯六度の参宮に始まり、二代様の時代の「千人参り」と明治から昭和にかけての「萬人参り」という無形のご神縁とともに、有り難い有形のご神縁として、昭和四十八年(一九七三)の神道山大殿の建築に際して、第六十

回式年遷宮で古殿となった内宮の御神木を賜わって御神殿を設えさせていただいていることです。このご神恩に報いるためにも、日々の感謝の心を養い、ありがとうございます運動を通して「式年遷宮」に奉賛申し上げようと、二十

年前と同様に平成二十五年の「第六十二回式年遷宮」に際しても奉賛の誠を捧げることになりました。教主様、副教主様は、今年から全国各地の教会所に参つて、あり

がとうございます推進、祈りの集いを開催し、あらためて「伊勢神宮と皇室」・「伊勢神宮と黒住教」・「皇室と黒住教」についてお説き明かし下さっています。

さて、「お木曳行事」前日の五月二十七日には、教主様、副教主様、田中教務総長が、北白川神宮大宮司様を表敬訪問され、歓談のひと時を持たれました。その後、あいにくの横

殴りの風雨の中を全国津々浦々から集結したお道づれと入流、二見興玉神社で、無垢塩祓いを受けられました。

翌二十八日当日、宮町の奉曳出發地にお道づれが集合する午前九時が近づくとつれて、朝方まで降り続いた夜来の雨は小降りになり、お木曳車の前に全員が整列する頃には完全に晴れ渡るといふ広大なご神慮に浴し、全員大感激の中で出發式となりました。奉曳本部長を務める伊勢市長の歓迎の挨拶に続いて、いよいよ出發の時を迎えました。

本教が奉曳するお木曳車には「太一」の立て札が揚げられ、樹齢三百年を数える大木が横たえられてい

ました。「太一」は、宇宙のすべてのものが生み出される大元、すなわち太陽に象徴される、生々化育のお働きである天照大御神のことを意味します。



のりを一時間余りかけて曳くのです。道中、木遣り子の「木遣り歌」も披露され、陽気は一層満ち渡り、お道づれは教主様を中心に、感謝と感動のうちに心

このお木曳車に二百五十名の白

い大綱(直径五寸余)が取り付けられ、それをお道づれが一握り締め、外宮北御門まで約一キロの道

一つになりました。やがてお木曳車は外宮北門に到着、教主様が「来年の『お木曳行事』にも参拝奉仕しよう!」と呼びかけられると、威勢よく一斉に歓声が上がりました。万歳三唱後、教主様を先頭に奉仕者全員が揃いのハッピ姿で外宮に御垣内参拝、伊勢市民の心温まるもてなしを受け、感激のうちに第一次「お木曳行事」参拝奉仕は終了しました。

なお、来年は「第六十二回神宮式年遷宮お木曳行事」の締めくくりになる六月三日の最終車を曳かせていただくことが決まりました。二十一年に一度しかない貴重な神機です。一人でも多くのお道づれの皆様と



の参拝奉仕を期待しています。



の参拝奉仕を期待しています。

「ふるさと・イキイキ・だより」 発刊に際して

黒住教教務総長 田中愼壹朗

本紙「ふるさと・イキイキ・だより」は、黒住教が取り進める「ふるさと生き生き便り運動」のニュースタイルです。

平成二十六年(二〇一四)に黒住教は、立教二百年を迎えます。弘化三年(一八六四)に教団組織が整えられて各地各所に教会所が設立され、多くの信奉者(お道づれ)が集い、お道(御教)の心を養い、祈りと奉仕の誠が捧げられてきました。

ところが、時代の変遷に伴って私たちの生活環境が目まぐるしく変化し、かつての伝統的な家族ぐるみ・地域ぐるみの信仰生活の在り方が大きく変わりました。勉学や就職などで家族が都会へと移っていきます。人口流出です。また、地



方の大家族の生活スタイルも核家族化の進行で独居老人が増える有り様です。

けれども、こうした個人主義化した生活を送る人たちも、正月やお盆には「故郷」に帰って先祖の墓に参り、離れて暮らす祖父父母や両親と過ごすひとときを大切にします。

ここに「ふるさと生き生き便り運動」を行う意義があります。

「ふるさと」を離れて黒住教とご縁が薄らいでいる方に、代々お守りいただいていた教祖宗忠神(ご先祖の御霊(みたま)様との絆をしっかりと結び直して、「開運の宗教」である黒住教信仰を通して「よりよく、より幸せに」生きてもらいたいという願いが込められています。本紙や教団機関誌「日新」、また教会所便りなどをお送りして、物理的には離れていても精神的には「ふるさと」とつながっていることを実感していただきたいと願います。

末筆ながら、ご尊家のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

拍手

神道山からの風便り

「ありがとう」の反対は……?

副教主 黒住宗道

昔も今も、人々の生活に欠かさない言葉「ありがとう」。世界のどの宗教の教えも、大いなる御働きへの感謝が基本といつて過言ではありませんが、とりわけ私たちは、本教ならではの言い回しである「ありがとうなる」を最高の心境として日々の信心に励んできました。

「式年遷宮奉賛」の原動力である「ありがとうございます運動」(毎日行う感謝のお供えも、「ありがたい」から恩返しとしてつとめると同時に、「一層」ありがとうなるための修行として参加させていたたく信仰運動です。

その気になって探せば身近な所にいくらかもある「感謝の種」ですが、「分かつてはいるが、できない・しない」が人の常。だからこそ、「ありがとうなる」は私たちの「修行」です。各地で「ありがとうなる」ことの大切を説きながら、私自身が感じた素朴な疑問が「『ありがとう』の反対は……?」でした。

『愛』の反対は「無関心」と説いたマザー・テレサの言葉のように、誰もが納得できる反対語を意識す

ることで、歩むべき道は見えてくるものです。それでは、「ありがとう」の反対語は何か……。

「有り難い」、すなわち「有ること」が難しい」は、そもそも「滅多にな」と感じたときの気持ちを表す言葉です。ということは、「滅多にないと感じない」、すなわち「当たり前だと思ってしまう」と口をついて出てこない言葉です。この、意識もしないで受け流してしまう「あたりまえ」こそ、「ありがとう」の反対語なのです。物質的に恵まれた時代に生きる私たちが、いつの間にか自分で麻痺させてしまっている新鮮な驚きや喜びが、実は「物で榮えて心で滅びる」と指摘された「現代病」の原因だと改めて気づかされたことです。

「ありがとう」の反対は「あたりまえ」

このことが分かると、「ありがとう」がますます推進の道も可能性が広がってきます。正攻法で「感謝の種」を見つけて育てていく一方で、「当然菌」の蔓延を抑えることによる効果に期待がもてるからです。技術革新によってもたらされ

た便利さの一つ一つに感謝することは難しくても、「これを当たり前だと思つてはならない」と反省することは、その気になればできるはず。

さらに、「謝意」という言葉が「お礼」と「お詫び」を意味することや、「申し訳ない」が単なる「ごめんなさい」ではなく「恐縮です」というニュアンスで感謝の気持ちが届められていることから伺えるように、「感謝」と「反省」は、いわば表裏一体です。「あたりまえ」として片付けてしまっていることを意識して改めるといことは、裏の裏は表的な意味で「ありがとうなる」ための近道なのです。

またそれは、戦後生まれの世代の人の多くが、まさに「当たり前」として見過ごしてきた、わが国の伝統精神への思いにも通じます。先祖・先輩方が尊び重んじてきた日本の国柄の「有り難さ」を再認識することも、現在、全国の教会所で開催している「ありがとうございませ推進・祈りの集い」の大きな使命だと思つていきます。

「このままではいけない……」と多くの日本人が漠然とした危機感を抱いているようですが、少しずつでも「あたりまえ」の克服に心がけるお互いでありたいものです。

しんとう じん 神道山からのお知らせ(平成十九年前半期)

黒住教本部の主な行事

一月一日(月)午前〇時 歳旦祭

・新年最初の御神前行事です。

午前六時五十分 日拝式(初日の出)

一月八日(月)午前十時 道つれ新春開運祈願祭

・全国下のお道つれが初詣にお参りされます。

一月二十二日(月) 教主様伊勢神宮内宮ご参拝

【午前八時三十分内宮宇治橋集合】

・毎年恒例の教主様伊勢神宮初詣です。お道つれの方々も、この日に併せて伊勢参宮を計画されます。

三月 十日(水)午前十時三十分 春季祖霊祭

三月 二十一日(土)午後一時三十分 教祖大祭

・黒住教三大祭の一つです。

五月四日(金) 第二十九回まるごとキッズ・フェスタ(五日まで)

・小学生を対象とした泊二日のイベントです。参加ご希望の方は本部までご連絡ください。

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

五月五日(土)午前十時三十分 第十八回

行事(陸奥)の最終日となる平成十九年六月三日(日)です。

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

・三大祭の一つです。半年の罪けがれを祓う神事です。

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

六月三十日(土)午後二時三十分 大祓大祭

神道山ついたち御日拝のご案内

＊お日の出の郷神道山では、毎朝、お日の出の時刻二〇分前より、日拝所で「御日拝」を執り行っています。

＊御日拝：毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。

＊毎月一日の「ついたち御日拝」には、多くの方がお参りになります。

「ついたち御日拝」の開始時刻は左記の通りです。

一月一日：午前六時五十分

二月一日：六時四十五分

三月一日：六時十五分

四月一日：五時三十五分

五月一日：四時五十五分

六月一日：四時三十五分

七月一日：四時三十五分

主要連絡先

大元・宗忠神社

〒700-0972 岡山市上中野1丁目3-10
TEL086-241-0148 FAX086-241-7860

神楽岡・宗忠神社

〒606-8314 京都市左京区吉田下大路町63
TEL075-771-2700 FAX075-771-2465

北海道地区

札幌教会所

〒060-0052 札幌市中央区南二条東4丁目2
TEL011-221-8928 FAX011-221-7797

関東地区

東京支庁・東京大教会所

〒154-0001 世田谷区池尻2-21-18
TEL03-3795-4142 FAX03-3795-4209
URL…http://www1.odn.ne.jp/kurozumi-tok

中部地区

名古屋教会所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-33
TEL&FAX052-231-4285

関西地区

大阪大教会所

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪1-3-14
TEL 06-6771-8191 FAX 06-6771-8199
URL…http://www.kurozumikyos-osaka.com

天王中教会所

〒652-0008 神戸市兵庫区上祇園町7-12
TEL 078-361-4806 FAX 078-361-5760

九州地区

福岡教会所

〒811-1344 福岡市南区三宅2-10-14
TEL&FAX 092-511-9623

●まるごとダイヤル●

教主様・副教主様の講話・教団の活動情報が聞けます。

086-284-1111

黒住教ホームページ

教祖神・教えと実践・教団の歴史・活動・書籍など

kurozumikyos.

黒住教機関誌「日新」

1冊150円/年間12冊1800円
お申込は教会所まで。